

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年5月26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890700040		
法人名	株式会社 しもふさの郷		
事業所名	グループホーム くわの実	ユニット名	くわの実
所在地	〒307-0043 茨城県結城市大字武井1244番地6		
自己評価作成日	平成27年12月17日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0890700040-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年2月24日	評価機関 決 済 日	平成28年5月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>澄んだ空気と森林の中に佇む環境のなか、利用者（認知症高齢者）の心身の状況を踏まえて、その方の能力に応じて自立した日常生活を継続して営むことができるよう、一人一人の個性に合わせた必要な援助を行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所の周辺は田園地帯となっており、四季の変化を風景からも感じることができる場所となっている。</p> <p>管理者や職員は利用者に笑顔と優しさで寄り添い、利用者本位の支援に努めているとともに、事業所広報誌「くわのみ便り」を毎月作成して家族等に送付し、利用者の方々の日々の暮らしの様子を報告できるよう配慮している。</p> <p>協力医療機関の医師による月2回の訪問診療や毎週の訪問歯科診療は、利用者や家族等の安心につながっている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を管理者と職員で朝礼時などに話し合う機会を設けている。また、利用者がコミュニティの一員として、能力に応じた日常生活を営むことを目指し、利用者との交流を図っている。	開設時に代表者と全職員で話し合い、「慣れた地域での生活を継続出来るように地域の方々と交流を…」などの地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、食堂に掲示している。 職員は月1回のユニット会議で理念を唱和し、確認するとともに、共有して実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩、買い物等の外出を通し、地域住民とのふれあいの機会を設けている。また地域ボランティアの受け入れや運動会などの地域行事に積極的に参加し交流を図るなど、地域住民に認知症高齢者を理解していただくよう努めている。	利用者と職員は、地元自治会や老人会の行事に参加したり、小学校の運動会に招待されて見学するほか、同一法人と合同で開催する「しもふさの郷感謝祭」に、近隣の保育園児や地域住民を招待し、交流している。 手品や民謡、フラダンス等のボランティアを受け入れるとともに、認知症の相談窓口を設けて近隣住民からの相談に応じている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会社全体を通して、日常的に施設行事等の参加者や利用者家族に対し、認知症への理解や介護技術並びに援助方法等を教示している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居状況・活動状況等の報告を行っている。また、運営推進会議には利用者家族や地域住民代表も出席しており、会議において出た意見をサービス提供に反映するよう努めている。	運営推進会議は家族等の代表者や市職員、地域住民、代表者、職員で開催し、議事録を作成しているが、年6回以上開催するまでには至っていない。 事業所からは運営状況や行事報告のほか、外部評価の結果を報告している。 地域住民代表からはカラオケの実施状況について、家族等からは豪雨被害やマイナンバーに関する質問があり、検討して記録に残すとともに、サービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議はあらかじめ年間行事に組み込むなどで、年6回以上開催できるよう取り組むことを期待する。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設者及び管理者は、機会あることに利用者の活動状況を報告するなど市担当課と連絡を密にしている。また、運営推進会議には、市担当者が必ず出席しており、当グループホームの状況は常に把握している。	施設長や管理者が市担当者を訪問し、事業所の取組みや生活保護受給者の介護計画を報告するほか、要介護更新申請の情報を得るなど、良好な関係作りに努めている。 本年は災害のために中止となったが、例年市主催の「ふれあい祭り」に招待されて利用者と一緒に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は、身体拘束をせずに行うケア三つの原則を十分に理解し、身体拘束をしない・させない・より良いケアに努めている。また、会社全体では「事故防止・身体拘束・褥瘡委員会」を設置しており、その人の人格を尊重して日常生活が送れるよう拘束廃止に向けた取組みを積極的に推進している。	身体拘束排除に向けた研修会を実施し、職員は身体拘束の具体的な行為や弊害を理解している。 日頃の介護中にでた疑問点は、その都度管理者や職員で話し合うほか、同一法人と合同の「身体拘束排除委員会」に参加して、身体拘束のないケアに努めている。 事業所は交通量の多い道路に面しているため、安全確保のために施錠をする場合もあるが、利用者が外出を希望する場合には、職員が見守りながら同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法や身体拘束ゼロ作戦を踏まえ、内部研修や市・県等の外部研修会に管理者・職員が積極的に参加するよう促している。また、利用者の日常生活上の変化に気づいた場合には、報告するよう職員に指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する制度の研修会等が開催される場合には、管理者・職員が積極的に参加するよう促している。また、権利擁護等が必要な利用者がある場合には、関係者と協議することに努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や介護報酬改定時には、利用者・家族等に対し、パンフレットや重要事項説明書に基づき説明を行うとともに、その他の疑問等の相談にも応じるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関することについては、利用者、家族等及び指導監督権限のある市の意見を尊重し、できる限り事業運営に反映している。また、運営推進会議での意見も反映するよう努めている。	利用者からは日々のふれ合いの中で、家族等からは面会時や電話等で意見や要望を聴いている。 事業所は家族等に年1回無記名のアンケートを実施し、得られた意見から課題を分析して結果を報告するとともに、職員で情報を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	開設者及び管理者は、常日頃から職員と意見交換を図っており、職員から出た意見については尊重し、運営に活かすよう努めている。	管理者は月1回のユニット会議や、日頃から職員の意見を聞くように努めており、排泄支援を担当制にするなど、職員から出た意見や提案を運営に反映している。 スキルアップのための資格取得を希望する職員には、研修会への参加等を支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設者は、管理者及び職員に対し、必要に応じ随時面接し、職員のメンタルヘルスに注意を払っている。また、夜勤者には年2回の健康診断を実施しており、職員の健康管理にも注意を払っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当社では、職員全体の技術・知識の向上を目指し、研修会や勉強会を企画運営する「研修委員会」を設置し、職員のスキルアップに努めている。また、資格取得を希望する者には、研修費を会社が負担するなど、金銭面でのバックアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の地域密着型サービス事業所の職員で構成する連絡会に管理者、職員が出席し意見交換を図り交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は、利用者が環境の変化などにより、心身状態が不安定であるため、利用者の不安なことや要求等に傾聴し、コミュニケーションを図り、信頼関係を構築するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初から、利用者の心身状況や要望等を家族から聞き取り、それに合ったケアに努めるとともに、家族との連絡を密にし信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当初に、家族等から利用者の不安などの心理症状、暴言などの行動症状を聞き取り、また、認知症の行動・心理症状が起こる性格、価値観などの要因を把握し、その人に合ったケアに努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思と人格を尊重し、その人の立場に立ってサービスを提供するとともに、利用者と職員が一体となって環境づくりを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にとって利用者は、大切な存在であるので、家族との面会などのふれあいの場を積極的に推進している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元自治会や老人クラブ、近隣の小学校、保育園の行事等に積極的に参加し、本人がこれまで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	家族等や友人が来訪した際は、娯楽室にてゆっくり話ができるよう配慮している。墓参りや法事など、利用者からの要望は家族等に協力を得て支援している。行きつけのスーパーや衣料品店での買物、老人会の行事への参加等、馴染みの人や場所との関係が継続出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内での利用者同士の関わりは、共同生活するうえで、最も重要であり、昼間はフロアでカラオケやゲームなどで交流を深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され在宅復帰や他の施設に移られても、必要に応じて本人及び家族等のフォローアップに努めます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族等の意向を把握し、その意向に沿って計画作成担当者が作成するサービス計画に基づいてサービスを提供している。	職員はアセスメント表や日々の関わりの中で、利用者の希望や思いを把握するとともに、ケース記録に記載して申し送り時に話し合い、職員で情報を共有している。意志疎通の困難な利用者の中には、家族等に相談したり、表情や仕草等で思いの把握に努め、利用者本位の支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から利用者の不安などの心理症状、暴言などの行動症状を聞き取り、また、認知症の行動・心理症状が起こる性格、価値観などの要因を把握し、その人に合ったケアに努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者本人のサービス計画に基づき、その人に合ったケアを職員が個別に判断し対応している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じ、サービス担当者会議を定期的で開催し、本人、家族、職員との意見交換を行い、適時にサービス計画の見直しを行っている。	介護計画は利用者や家族等の意向を取り入れるとともに、支援経過記録を基に課題を把握し、医師の意見を聴いて職員で話し合い、作成している。 長期目標を6ヶ月、短期目標を3ヶ月に設定し、3ヶ月毎にモニタリングを実施して6ヶ月毎に見直しをしている。 利用者の心身の状態等に変化が生じた場合は、随時モニタリングを行い、介護計画を見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を作成し、申し送り等で伝達し、サービスが途切れないよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当社は、グループホームに併設して有料老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、居宅介護支援事業所を有しており、利用者の個別ニーズに柔軟に対応できる体制が構築されている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サービスの計画作成にあたっては、利用者が今まで培ってきた地域資源を把握し、いつまでも安心して暮らして行けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当社関連の、しもふさクリニック（歯科）、みわの郷クリニック（内科）により、定期的な健康診断の実施や訪問診療など医療体制は充実している。また、専門性及び緊急性のある場合には、近隣の病院等との連携も図られている。	かかりつけ医への受診は、家族等の付き添いを基本としているが、家族等が付き添えない場合には、看護師である管理者が付き添い、結果等を電話等で報告している。月2回協力医療機関の医師による訪問診療を実施するとともに、歯科医師による週1回の訪問歯科診療が行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の計画作成担当者は、看護師を兼務しており、看護医療体制は充実している。利用者が適切に医療が受けられるよう管理し、支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が医療機関等に入院する場合には、ソーシャルワーカーや医師との情報交換を密にし、利用者の状態把握に努めている。また、退院する場合の受け入れ態勢の構築に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については、早い段階から説明を行い、かかりつけ医、家族等との連携を図り、本人及び家族等の意向に添えるよう努めている。	契約時に「看取り介護に関する指針」にて家族等に説明し、同意を得ている。利用者の状態に変化が生じた場合には、その都度意向を確認しながら対応方針を共有し、安心して納得した看取りができるように支援している。管理者が看護師で、24時間オンコール体制がとれており、家族等や職員の安心につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時・緊急時の対応マニュアルが整備されている。定期的に職員に周知し、緊急時に混乱しないように教育を行っている。また、当施設内にAEDが備え付けられている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当施設では、先の集中豪雨での水害被害はありませんでした。災害対策については、計画的な職員訓練と設備点検を行い、利用者の安全確保に努めます。	避難訓練は年2回、同一法人の事業所と合同で地域の消防団の協力を得て実施しているが、問題点や反省点を記録に残したり、水害等を想定した避難訓練を実施するまでには至っていない。隣接する同一法人の事業所と合同で、米や飲料水、缶詰等を賞味期限等が記載されている備蓄品リストを作成して管理している。	避難訓練報告書を作成し訓練で明らかになった問題点を共有することや水害等様々な災害に備えた避難訓練の実施を期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、人生の先輩でもある利用者に対しては、敬意を表して、きちんと姓で呼ぶよう心がけている。また、同姓の利用者には、名前でも呼ぶこともあるが、利用者の誇りを損なわないよう言葉づかいに注意している。	職員はプライバシー保護に関する研修を行うとともに、利用者一人ひとりを人生の先輩として敬い、人格を尊重しながら誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は、施錠できる書棚に保管し、取り扱いに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者から、手紙やはがきを出したい、電話をしたい等の申し出は、利用者の希望に沿うようその都度対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の気分を損なわないよう、外出ツアーなどの施設行事があっても、本人の意思を尊重し、居室にて過ごされることもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のなかには、お化粧品や髪を整えることができない方もいるので、職員が支援している。また、理美容の受付を毎月行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じ、できるものは職員と一緒に協力しながら行っています。	職員は季節の花が置かれたテーブルで、利用者と同じ食事を摂り、食事介助をしながら見守りをしている。 利用者は出来る範囲で配膳や下膳、洗い物等の役割を担っている。 自家菜園で収穫した旬の胡瓜やトマトなどを楽しんだり、外出時には利用者の希望により蕎麦やドーナツ等を楽しんでいる。 利用者の嫌いな物には、代替え食を用意して食事を楽しめるよう配慮したり、体調に合わせて刻み食やペースト食も用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し、本人が嫌いなものでも食べてもらえるよう声かけを行っている。また、本人の嗜好にあった好物も希望に応じ提供しています。夏場の水分摂取には特に注意し、夜間でも一人一人に合った水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の手入れができない方には、職員が行っている。自歯の方は、職員の介助で歯磨きを実施している。また、しもふさクリニック（歯科）の歯科衛生士による口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の状況に応じ、適切な排泄介助とオムツ外しを意識的に取り組み排泄の自立に向けた援助を行っています。また、職員は利用者の排泄パターンを理解し、適時トイレ誘導を行っている。	職員は利用者の排泄記録表を活用して排泄リズムを把握し、利用者一人ひとりのタイミングに合わせてトイレ誘導を行っている。 紙パンツから布パンツに改善された事例があるなど、職員は利用者がより快適に過ごせるよう、適切な排泄支援に取り組んでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理者及び職員は、利用者の水分摂取量及び排泄回数を記録に取り、常に注意を払っている。また、利用者の中には、心不全の方もいるので水分不足や過剰摂取に特に注意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、各自希望の時間帯を考慮し実施している。また、一人で入浴したいと希望される方については、次の人を脱衣場に入れられないなど個々に応じた入浴支援を行っている。	入浴は週2回を基本とし、利用者の体調によってはシャワー浴や足浴、清拭等に変更して支援している。 入浴を拒む利用者には、時間帯や職員を変えて無理強いせずに促している。 利用者の状態に合わせて、補助板や滑り止めマット等を使用し、安心して入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身状態も一人一人違うため、安静の必要性も当然違うため、個々に応じて対応している。また、就寝時間も日課表の時間内に希望される時間にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服薬については、当施設の看護師が、その使用目的、取り違えなどの誤使用を防止する方策、適正使用について、常日頃から職員に周知している。特に誤薬については、利用者への声かけなどにより、本人確認の徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方で、台所仕事を好まれている方がおり、お米とぎやお茶碗洗いなど職員と一緒にしている。また、施設周りの草取りや、お花の水やり、小鳥やうさぎに餌を与えることを日課にしており、楽しんで過ごされている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・外食ツアーなど定期的に外出する機会を設けている。帰宅願望の利用者には、家族の協力により適時外出・外泊の支援を行っている。また、併設の有料老人ホームにおいて、ヤギなどを飼育しているので、利用者の癒しのため、散歩がてら日常的に観賞している。	職員は利用者の体調に配慮しながら近隣に散歩に出かけたり、中庭で日光浴をしたりお茶を飲むほか、うさぎやヤギとのふれ合いや自家菜園の手入れを楽しんでいる。外出計画を立てて、花見やさくらんぼ狩り、菊祭りのほか、買物ツアーや外食ツアーに出かけ、季節を肌で感じられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物については、家族から預かっているお金であることを本人に伝え、買い物ツアーに出かけている。支払いはなるべく本人に行わせ、金銭感覚を忘れないようしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話する場合には、ホール内にある電話で直接本人が掛けるよう支援している。手紙については、本人に書かせているが、宛先が不十分であるため、直接家族に渡しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内で毎月手作りカレンダーを作成し、掲示し季節感が漂うにしています。また、散歩や各種行事等に参加した写真を掲載するなど、心地よい空間が保てるよう工夫しています。	季節の花や観葉植物を飾った居間兼食堂は、レクリエーションをしたり、テレビを観るほか、洗濯物をたたんだり、手作り作品を制作する場所になっている。壁面には利用者と職員で制作した貼り絵や、外出時等の写真が掲示されている。娯楽室は家族等の面会時に使用したり、利用者の昼寝や利用者同士の語らいの場にもなっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、常に利用者が集まってきており、テレビを観たり、カラオケや談話を楽しんだりしている。一人で過ごしたい方は、談話室のソファでくつろいでおられます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、枕や肘掛椅子など自宅で使用していた物を持参していただき、生活行動パターンを変えないよう工夫しています。	居室にはベッドやエアコン、洗面台、カーテン、ナースコールが備え付けられている。 箆筒や衣装掛け、肘掛け椅子、寝具、テレビ、時計、家族の写真など、自宅で使い慣れた物や思い出の品を持ち込み、居心地よく暮らせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の日常生活をよく観察し、「できること」を見出し、生きがいある生活が継続できるよう支援している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム くわの実

作成日 平成28年5月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議はあらかじめ年間行事に組み込むなどで、年6回以上開催できるよう取り組むことを期待する。	2ヶ月に1回開催できるよう年次計画を立て実践する。	年次計画により、偶数月に開催する。	1年
2	13	避難訓練報告書を作成し訓練で明らかになった問題点を共有することや水害等様々な災害に備えた避難訓練の実施を期待する。	火災訓練、夜間想定訓練は実施しているが、想定しにくい水害等の訓練も実施する。	当法人の防災委員会において、実施した訓練内容の課題を整理し次の訓練に活かすよう努める。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。